＜新 入 生 特 集＞

# 確かな「知」を求めて

附属図書館長　鹿　島　正　裕

## ○「正解」は一つか？

皆さん，金沢大学ご入学おめでとう。新入生に図書館の利用について何か述べるよう求められましたが，私自身図書館長としては新米で，本稿執筆時点ではまだ就任もしていませんので，ここでは図書館長としての考えというより，長年図書館を利用してきた先輩として最近思うことを，学部入学生を念頭においてお話します。

皆さんは，これまで大学入試のための勉強を中心にしてきて，問題に対する正解になるような知識を暗記し，あるいは正解を導く解き方を学ぼうと，精力を傾けてこられたことでしょう。それはそれで，大学での勉強，また社会生活のための基礎ないし土台になりますが，大学での学問は，そもそもこれまでの知識や，問題の解法に疑問を抱くことによって進歩するものなので，皆さんも発想を転換してください。

つまり，「正解」は一つだけとは限らないし，誰もが認める正解などないかもしれない，ということに慣れてください。もちろん皆さんは，これまでも，たとえば憲法第９条の解釈を巡って，自衛隊は違憲だ，いや合憲だと，政府・与党と野党（の一部？），また法曹や憲法学者の間で意見が分かれていることなどに気づいてこられたでしょう。高校での教育や大学入試では，そうした論争的なテーマを取り上げることが避けられているので，皆さんもあまり自分で考える必要がなかったはずです。

**鹿島　正裕**

KASHIMA Masahiro
2006年４月１日から
附属図書館長。
大学院人間社会環境研究科及び法学部教授。

## ○価値観の対立

しかし，学問の世界では，そして社会生活でも（まして国際社会では），人により「何が正しいか」についての見方・意見が違うことがままあり，皆さんも誰に賛成するかの判断を迫られます。第９条はいちおう国内問題ですが，首相の靖国神社参拝が合憲か違憲か，政治的に適切か否かは，国内問題であるにとどまらず中国や韓国との外交問題になっていることもご存知でしょう。あるいは，最近のイラクやパレスチナについての報道に注意していれば，イスラム過激派が，キリスト教徒やユダヤ教徒，さらには同じイスラム教徒でも別の宗派（スンニー派・シーア派など）に対してテロ行為をなしているのが分かります。彼らは，自分達は絶対的に正しくて，異教徒は殺しても許されると信じているのです（そこには，思想だけでなく権力や富の分配を巡る争いも絡んでいますが）。

現代の日本は，そうとう言論や学問の自由があり，政府や多数派の見解を批判して「通説」を変えさせることもある程度可能ですが，第二次大戦までの日本は軍国主義的・全体主義的でしたし，今も多くの発展途上国ではそうした自由は乏しいです。そこでは，子供は親や教師らから一方的な見方を絶対的に正しいものと教え込まれ，疑うことも許されません。そして異教徒や外国人を排斥するよう促されることもしばしばです。せっかく自由な日本にいても，右派の人は右派の言説しか受けつけず，左派の人は左派の言説しか受けつけない傾向があって，反対派の人に暴力を振るう場合すらあります。そのような偏狭な精神から脱却するためには，様々な事柄について，多様な見方・意見があることを前向きに受けとめ（そこにこそ進歩の余地があるかもしれません），いろいろ比較検討して自分の見解をもつようにしなければなりません。

## ○より正しい見方を図書館で

異見に寛容であれと言っても，どんな見方・意見も等価であって優劣はないと思え，というわけではありません。極端な意見の多くは，客観的検証に耐えない，誤った・あるいは意図的な嘘でさえある「事実」を拠り所にしています。コンピューター時代に育った皆さんは，ややもすると，本や論文を集めて読むより，手っ取り早くインターネットの検索で「情報」を集めて勉強したり，レポートを書こうとしがちになるかもしれません（そういう大学生はかなり多いです）。もちろんインターネットで有用な情報が容易に手に入ることは確かですが，匿名の書き手や怪しげなサイトが流す言説は，民主党の議員が引っかかった「ガセネタ」も一例ですが，偏見や極論や虚偽に満ちていることがありますので，よほど注意してください。

その点，附属図書館にある膨大な書物や雑誌は，長年にわたり多くの教員が選んで収集してきたもので，その内容には比較的信用がおけます。膨大すぎてどれを読んだらよいか分からないと思われるかもしれませんが，キーワードで検索することができますし，さらに図書館カウンターの職員や関係分野の教員に助言を求めることもできます。また，膨大な図書といってもほとんどは古かったり，検索で見つけた本や雑誌論文が書架にないかもしれません。そうした場合，教員の研究室や，他大学等の図書館から（最近の書物も）借り出すことができそうですし，図書館にない雑誌もオンラインで論文を入手できる可能性は高いです。

もちろん，図書館を通じて入手した情報なら，すべて信用して受け入れてよい，などとは言いません。前述のように，調べたいテーマを得たなら，それに関する多様なデータや研究・論説を集めて，何が一番真実に近い，あるいは正義に適いそうかを，自分で判断しなければなりません。そのように考えていくと，そもそも問題の立て方がおかしいとか，別の問題を考える必要があるということに気づく場合もあるでしょう。そうして私たちは学問，あるいは確かな「知」に近づいていくのであり，そのような「問題発見能力」が，大学受験に要求された「問題解決能力」に加えて求められることが，大学の大学であるゆえんなのです。

最後に，東京の国会図書館の壁に刻まれた金言を，皆さんに贈ります。

**「真理が我らを自由にする」**